

大栗 民江

(公明党)

AEDの装備や講習会等は

問 AEDの使用について救急ガイドラインの見直し等が図られたと聞かれますが、公共施設・教育施設に設置されているAEDへの小児用パッドの装備は。

答 2010年のガイドライン変更により、小児用パッドは6歳未満への使用となり、無ければ成人用を代用してもよく、更に1歳未満の乳児にもAEDが使えることになった。6歳未満に成人用を代用できるとはいえず小児用パッドには電流を抑える減衰器がついており、乳幼児には小児用パッドの使用が勧められている。今後、小児用パッドは保健センター・文化会館・図書館・「ふらっと」に設置する。

問 AEDが設置されていてもいざという時に使えなければ絵にかいた餅になってしまう。ガイドラインの変更や担当課の異動等を鑑み、受講しやすい体制を整える必要があると考える。

全職員はもとより市民への受講機会の普及について見解は。

答 富良野広域連合で実施する救命講習と日本赤十字救急法講習がある。今後も市民に対し積極的に講習を受けるよう周知していく。



「救急法実技講習」

問 文部科学省は、各種スポーツ団体にAED設置を呼びかける通知を出された。市の大きな行事等では設置施設からAEDを持ち出して備えているが、一般市民の行事等でも貸し出せる仕組みを整えていく必要があるのでは。

答 保健師等の配置も行っているため現在は考えていない。◇その他、高齢者肺炎球菌ワクチンについて質問。

本間 敏行

(ふらの未来の会)

本通り商店街の振興対策は

問 中心市街地活性化における本通り商店街の現状認識についてどう捉えているか。あわせて、振興対策への考えは。

答 本通り商店街の現状としては、金融機関など多くの撤退により、現在の事業所数は29店舗という状況にある。このような中であって、本通りと新相生通りが交差する場所にある三番館は、核となる店舗であり、その存続を考えることも本通り商店街にとって重要であると認識しているところである。また、市と商業者の情報交換を定期的に行い、商業の振興に向けた戦略的な事業・企画を実施する目的で富良野市商業戦略会議を立ち上げ、情報交換を行っているところである。

今後、既存の中小企業振興条例の見直しによる活用しやすい支援メニュー、補助制度・融資制度の検討などについて、官民

一体となって作り上げていきたいと考えており、各商店街の協力は必要不可欠である。



本通り (中央通1) 商店街風景

学校支援地域本部事業・学校支援ボランティアの活動状況は

問 学校支援ボランティアの登録数と活動内容は。

答 登録状況については、本年度は8月末現在で男性83名、女性174名の合計257名が登録されている。分野別の登録状況は、授業での補助の登録が一番多く116名。登下校時の安全、見守り活動が106名、本の読み聞かせが75名と続き、その外として学校施設の環境整備、学校農園指導など数多くの分野がある。